



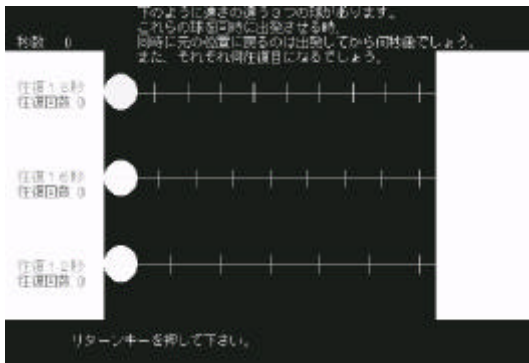
最小公倍数を考える必然性をもつには

51170 速さの違う3つの点

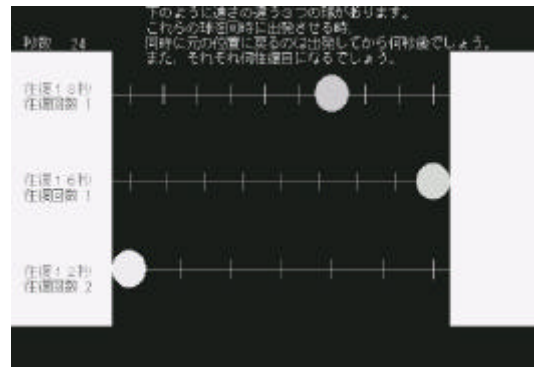
速さの違う3つの球があり、同時に壁の間を往復するとき、何秒後に元の位置に同時にもどってくるのかをシミュレーションで示すことができるソフトである。

初期画面

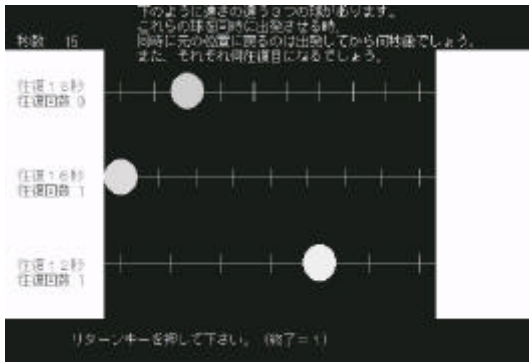
エンターキーを押すように画面表示される。



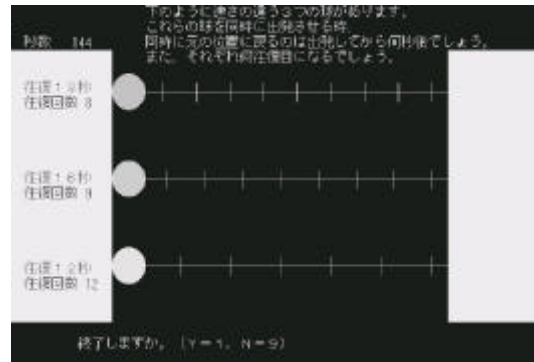
再びエンターキーを押すと球が動き始める。



F1キーを押すと、球の動きが一時停止する。



動き始めた球が同時に元の位置にもどると動きが終了する。



画面左上に、球が動き始めてから何秒たったのかが表示される。球が動き始めてからの時間と往復にかかる時間、往復の回数の関係を考えさせたい。

画面左上の時間表示を見ると144秒で3つの球が同時に元の位置にもどったことが確認できる。

ポイント

シミュレーションで144秒かかったことを確認して、計算でも144秒で元の位置にもどることを確かめる方法を考え、最小公倍数の考え方をはっきりさせたい。